

みどりを活かした健康まちづくり

荒金恵太

国土交通省国土交通政策研究所

The Use of Green Infrastructure for Human Well-being

Keita ARAGANE

Policy Research Institute for Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Summary

In this paper, the author provides an overview of the presentation “The Use of Green Infrastructure for Human Well-being” at the JSPPR–JHTA 2023 Joint Annual Meeting. The topics are as follows: "Future Direction of Green Open Space Policies under COVID-19 Crisis", "The Role of the Parks and Open Space Master Plan in Health and Welfare Policy", "US–Japan Aging in Place Forum".

Key words : COVID-2019, parks and open space master plan, aging in place, Seattle
新型コロナウイルス感染症, 緑の基本計画, エイジング・イン・プレイス, シアトル

はじめに

都市緑地法の第1条では、「この法律は、都市における緑地の保全及び緑化の推進に関し必要な事項を定めることにより(中略),良好な都市環境の形成を図り,もつて健康で文化的な都市生活の確保に寄与することを目的とする」と規定されている(都市計画法制研究会, 2023)。わが国の緑地政策の目的は、「良好な都市環境の形成」と「健康で文化的な都市生活の確保」であり,緑地政策を進めていくうえで,「健康」は特に重要なキーワードの一つである。新型コロナウイルス感染症の拡大や少子高齢化の進行等により,人々の健康意識がより一層高まっている中,「個人の意識的な努力や我慢に頼らず,暮らしているだけで健康になってしまう社会と環境を整える(岩崎, 2023a)」ことが求められている。このようなことから,「みどりを活かした健康まちづくり」は,都市政策や緑地政策の重要な課題の一つといえる。2023年5月に国土交通省都市局が公表した「健康まちづくりの事例集(国土交通省, 2023a)」においても,みどりを活用しながら健康まちづくりに取り組む事例が複数紹介されている。

筆者は,2023年10月に千葉大学松戸キャンパスで開催された,人間・植物関係学会,日本園芸療法学会2023年度合同大会において,「国交省における緑と人に関する取り組み」という演題で,「新型コロナ危機を踏まえた緑とオープンスペース政策の今後の方向

性」,「緑の基本計画における健康福祉施策の位置づけ」,「エイジング・イン・プレイスに関する日米共同研究」について話題提供を行った(人間・植物関係学会, 2023)。本稿は,当該大会における話題提供の内容の一部を再編集して報告するものである。

新型コロナ危機を踏まえた緑とオープンスペース政策の今後の方向性

2019年以降に発生・流行した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大防止のために,「三つの密」(密閉・密集・密接)を回避することが求められている。大都市中心部への通勤の集中による満員電車の発生など,都市における過密という課題が改めて顕在化し,これまでの都市における働き方や住まい方を問い直すことが求められている。また,テレワークの進展によって自宅近くで過ごす時間が増え,近所の公園の価値が再評価されるなど,人々のライフスタイルや価値観を大きく変えることとなった。

国土交通省都市局では,新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ,今後の都市のあり方にどのような変化が起こるのか,今後の都市政策はどうあるべきかについて検討するため,都市再生,都市交通,公園緑地,都市防災のほか,医療,働き方など,様々な分野の有識者を対象とした個別ヒアリングを2020年6~7月に実施した。筆者は2020年度当時,国土交通省都市局に所属し,当該ヒアリングの一部に参加していた。以下では,国土交通省都市局が当該ヒアリング結果も

2024年1月31日受付。

本稿は,人間・植物関係学会,日本園芸療法学会2023年度合同大会における話題提供の内容の一部を再編して掲載したものである。

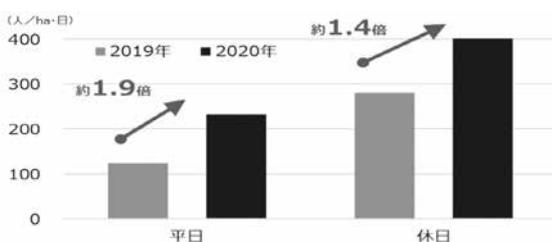
踏まえてまとめた「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（論点整理）（国土交通省，2020）」の内容のうち、緑とオープンスペース政策に関連する部分を中心に紹介する。

新型コロナ危機下で、多くの人が自宅近くで過ごす時間が増え、住まいの身近な環境や地域の自然資源の重要性が認識されるようになり、その使い方、役割に変化が見られるようになった。具体的には、テレワークにより様々な場所で仕事ができるようになり、例えば、屋外の自然の中など、快適な場所で自由かつ健康的に働ける可能性が広がったと考えられる。また、外出自粛のもと、精神的にもストレスが高まる中で、日光や緑、自然音などの心地よさや安心を五感で感じ、運動不足の解消やストレスの緩和といった効果も得られるオープンスペースの重要性が再認識されたと考えられる（第1図）。同様に、通勤時間の縮小に伴い時間的余裕が生まれた中で、都市農地が、緑と土地に触れる農作業により健康的に過ごせる場として、里山とともに、その重要性が再認識され、需要が高まっていると考えられる。加えて、家の庭先の価値も再認識されるようになった。

新型コロナ危機を契機として、公園、広場などの緑やオープンスペースに、例えば、屋根付きスペースがあって、パソコンも利用できるなど、テレワーカーの作業場所としての活用が求められるなど、これまでにない使われ方へのニーズも出てきている。特に、公園については、例えば、郊外や地方都市の住宅地周辺等においては、働く世代が自宅の周辺で過ごす時間が増えた結果、屋外テレワークのほか、健康づくりのための散策やランニングの拠点として活用されるなど、様々な利用ニーズが新たに発生していると考えられる。子どもの遊び場といった従来の役割も十分に果たしつつ、新たなニーズへの対応が求められるようになってきている。

なお、オープンスペースを、地域でのエリアマネジメント活動の実践の場として、事態の変化に対応しつつ柔軟に活用する上では、信頼性を有する中間支援組織の果たす役割が大きい。このため、こうした中間支援組織が制度を理解して、そのエリアの実情を把握しながら行政と連携して取り組む必要がある。

また、オープンスペースを効果的に活用するための人材育成の必要性が高まっている。



第1図 都立狭山公園、都立武蔵国分寺公園、都立野川公園の3月の公園利用者の比較（都内3公園の平均）（国土交通省，2020）。

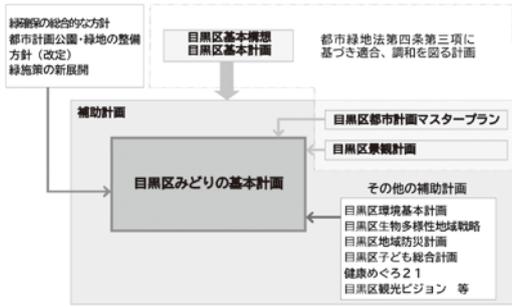
このようなことも踏まえ、今後の緑とオープンスペース政策の方向性としては、「将来的なオープンスペースの価値や役割の拡大を見越して、緑とオープンスペースの柔軟な活用と量的充足について、戦略的に対応していくこと」、「公園・緑地、民間空地等の広場、街路空間、水辺空間、都市農地など、既存ストックとしてまちに存在する様々な空間や種地を活用して、まち全体で総合的に緑とオープンスペースの活用を進め、地域のニーズに応じて柔軟に使いこなすこと」、「緑とオープンスペースをより効果的に使いこなすためのプラットフォームの形成、人材育成、地域の関係者に対する活用の方向性の情報発信などを行うこと」が必要という考え方が、上述の論点整理において記されている。

緑の基本計画における健康福祉施策の位置づけ

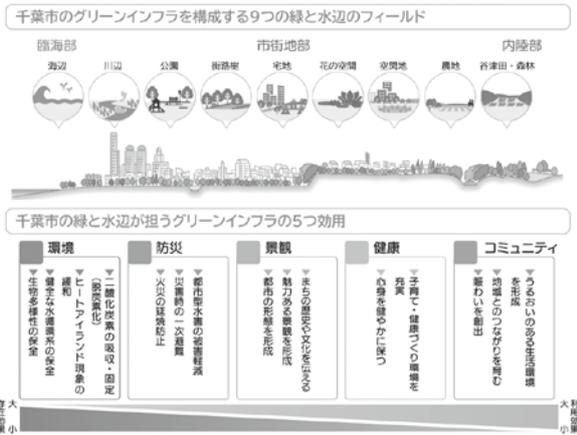
緑の基本計画は、都市緑地法に基づき、市町村が緑地の保全および緑化の推進に関する措置を総合的に定める計画制度であり、全国で約700の市町村で計画が策定されている（国土交通省，2023b）。緑の基本計画において健康福祉分野の施策を体系的に位置づけた上で、それぞれの施策を推進していくことは、みどりを活用した健康まちづくりの実現に向けて有効な方法と考えられるので、その一例を紹介したい。

2016年3月に定められた「目黒区みどりの基本計画（目黒区，2016a）」では、都市計画マスタープラン、景観計画、環境基本計画、生物多様性地域戦略、地域防災計画だけでなく、「健康めぐろ21（目黒区，2016b）」という区の長期計画（基本構想、基本計画、実施計画）の補助計画で、健康づくりに係る個別の事業、取組、目標を示した計画も、緑の基本計画の関連計画として位置づけられている（第2図）。また、公園内における健康器具の設置、健康づくり運動プログラムの作成、公園等のバリアフリー化、園芸療法の検討、こども動物広場における小動物とのふれあいやポニーの乗馬体験を通じた子供や障がい者の心身の育成などの健康福祉に関する施策が、同計画内において位置づけられている（目黒区，2016a）。

2023年5月に定められた「千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023（千葉市，2023）」では、公園、宅地、空地、川辺、海辺、農地、谷津田・森林といった様々なフィールドと、環境、防災、景観、健康、コミュニティという効用を重ね合わせたかたちで施策を展開していくビジョンが示されている（第3図）。また、同市内に位置する花園公園における「摘んで良い花壇（岩崎，2023a）」という園芸療法的視点を取り入れた植物と関わる取組（花園公園レイズドベッドプロジェクト（岩崎，2023a））の事例が、同計画の中でコラム的に紹介されている（千葉市，2023）。



第2図. 緑の基本計画と関連計画の位置づけの例 (目黒区, 2016a).



第3図. 緑の基本計画における効用の位置づけの例 (千葉市, 2023).

エイジング・イン・プレイスに関する日米共同研究

国土交通省国土交通政策研究所において筆者が関わっている「エイジング・イン・プレイスに関する日米共同研究」の取組についても紹介したい。2023年7月に、国土交通省、独立行政法人都市再生機構、米国住宅都市開発省の3機関で、「住宅・都市分野における研究協力覚書」が締結された。その中で、「エイジング・イン・プレイスや高齢者のためのコミュニティ開発に取り組む上での住宅政策や都市計画におけるイノベーション」等の研究テーマについて、国土交通省、独立行政法人都市再生機構、米国住宅都市開発省の3者が共同研究を実施し、現状の施策の検証、分析研究レポートの作成、定期的なセミナー等の開催などを行うこととなっている。エイジング・イン・プレイスとは、「高齢者が住み慣れた地域で安全かつ自立して快適に暮らすことを目指す概念(国土交通省, 2023c)」のことであり、日米共通の政策課題となっている。エイジング・イン・プレイスは幅広い概念であり、居住支援やコミュニティの醸成など様々な取組があるが、コミュニティガーデンなどのみどりを活用した取組もエイジング・イン・プレイスに資する取組の一つといえる。

2023年9月に米国シアトル市において、エイジング・イン・プレイス等に関する日米共同研究会が開催

され、筆者も当該研究会に現地に参加した。当該研究会の一環で、High Point や Lake City Court などの住宅地を訪れた際に、P-Patch Community Gardening Program と呼ばれるコミュニティガーデンの取組について、現地で解説いただいた(第4図, 第5図)。P-Patch Community Gardening Program は、シアトル市内における各地のコミュニティが管理するオープンスペースで構成されている。P-Patch Garden では、ガーデナーがその場所を使って、野菜、花、ハーブなどを栽培している。P-Patch Garden はすべて一般公開されており、共用スペース、くつろぎのスペース、学習の場、地域コミュニティの活動の場としても利用されている。高齢者の方が、作物を育てて収穫をして食べるという一連の取組を行うことや、当該活動を通じて、関係者とのコミュニケーションをとることは、高齢者も含めた地域に住む方々の生き生きとした自分らしい暮らしにつながっているとのことであった。

わが国においても団地内に貸農園を設置した事例(第6図)がいくつかみられる。筆者が現在所属している国土交通省国土交通政策研究所では、日米両国の知見を共有しながら、エイジング・イン・プレイスの実現に向けた調査研究を今後も進めていく予定となっている。



第4図. High Point Commons Garden (筆者撮影).



第5図. Lake City Court Garden (筆者撮影).



第6図. コンフォール松原の貸農園（筆者撮影）.

おわりに

本稿の最後に、シアトルのパークシステムに関する簡単な紹介と、「みどりを活かした健康まちづくり」に関する筆者の私見について、付記しておきたい。

筆者が2023年9月に米国シアトル市を訪れた際には、シアトルのパークシステムを構成する公園やブルーヴァールの一部（Green Lake Park（第7図）、University Boulevard（第8図）、Ravenna Park（第9図））に訪れる機会もあった。パークシステムは、緑地（公園、河川、湖沼、都市林を含む）と並木のある広幅員街路（パークウェイ、ブルーヴァール）のネットワークを、都市形成の基盤として整備する手法である（石川，2001）。公園、パークウェイ、ブルーヴァールの系統的な配置（Parks, Parkways and Boulevard System）を簡略にして、パークシステム（Park System）と称されている（石川，2004）。シアトルのパークシステムは、「ランドスケープアーキテクチャーの父（Father of Landscape Architecture）」と呼ばれるF.L. Olmstedの2人の息子であるJ. C. OlmstedとF.L. Olmsted, Jrが設立したオルムステッド兄弟社（The Olmsted Brothers Landscape Architecture Firm）が20世紀の初頭に計画・設計したものである（Ott，2019）。シアトルのパークシステムを構成する公園やブルーヴァールに実際に訪れると、この場所で散歩をしたり、ランニングをしたり、サイクリングをしたりする人を多くみかけた。本稿の冒頭で記した「個人の意識的な努力や我慢に頼らず、暮らしているだけで健康になってしまう社会と環境（岩崎，2023b）」の理想的なかたちの一つが、このシアトルのパークシステムではないかと、これらの場所を歩いて感じた次第である。



第7図. Green Lake Park（筆者撮影）.



第8図. University Boulevard（筆者撮影）.



第9図. Ravenna Park（筆者撮影）.

以下は筆者の私見であるが、わが国では人口が増加傾向から減少傾向に転じ、「つくる」時代から「つくりかえる」時代へと転換していく中で、公園をはじめとする緑とオープンスペースの役割は今後一層重要になると考えている。緑とオープンスペース政策の中核をなす公園は、「最も使いやすい公共空間」と呼ばれている。「公園から都市を変えていく」という方法は、変化や効果が分かりやすく、市民が参加しやすいとい

う利点がある。公園が変わることで、周辺の道路や河川などの公共空間の柔軟な活用や、空き家や空き店舗のリノベーションが進み、都市の骨格やまち全体が変わっていきことが期待される。公園をはじめとした緑とオープンスペースが都市の中心的な骨格や基盤となるようなまちづくりが展開された結果、そこで暮らす人々が、みどり豊かな空間で、わが国特有の季節感を感じながら、散歩やランニングやサイクリングを日常的に行うとともに、周りの人たちと交流をしながら近くにある農園で様々な野菜を育て、それらを食すことが可能となることで、「個人の意識的な努力や我慢に頼らず、暮らしているだけで健康になってしまう（岩崎, 2023b）」という社会や環境が実現することが、「みどりを活かした健康まちづくり」の望ましい姿の一つといえるのではないかと考えている。

摘要

筆者は、人間・植物関係学会、日本園芸療法学会 2023 年度合同大会において、「国交省における緑と人に関する取り組み」という演題で、「新型コロナ危機を踏まえた緑とオープンスペース政策の今後の方向性」、「緑の基本計画における健康福祉施策の位置づけ」、「エイジング・イン・プレイスに関する日米共同研究」について話題提供を行った。本稿では、その概要について報告するものである。

引用文献

千葉市. 2023 (更新年). 千葉市緑と水辺のまちづくりプラン 2023. 2024.1.31. (調べた日付). <https://www.city.chiba.jp/toshi/koenryokuchi/ryokusei/keikaku/r5urbangreenplanning.html>.
石川幹子. 2001. 都市と緑地. 岩波書店. 東京.
石川幹子. 2004. 街路景観と並木道. 国際交通安全学会誌 28 (4) : 289-297.

岩崎 寛. 2023a. みどりの処方箋. グリーン情報. 東京.
岩崎 寛. 2023b. 緑地福祉を推進するゼロ次予防の発想. 公園緑地 83 (5) : 25-28.
国土交通省都市局. 2020 (更新年). 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性 (論点整理). 2024.1.31. (調べた日付). <https://www.mlit.go.jp/toshi/machi/content/001361466.pdf>
国土交通省都市局まちづくり推進課, 都市計画課, 街路交通施設課, 公園緑地・景観課. 2023a (更新年). 健康まちづくりの事例集. 2024.1.31. (調べた日付). <https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001616190.pdf>
国土交通省都市局都市計画課. 2023b (更新年). 都市の緑化. 2024.1.31. (調べた日付). https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/content/001592704.pptx.
国土交通省住宅局総務課国際室, 都市局総務課国際室, 国土交通政策研究所. 2023c (更新年). 米国住宅都市開発省との協力覚書を締結～住宅・都市分野における日米協力を推進～. 2024.1.31. (調べた日付). <http://www.mlit.go.jp/report/press/content/001619600.pdf>
目黒区. 2016a (更新年). 目黒区みどりの基本計画. 2024.1.31. (調べた日付). <https://www.city.meguro.tokyo.jp/midori/kusei/keikaku/midorinokihonkeikaku.html>
目黒区. 2016b (更新年). 健康めぐろ 21. 2024.1.31. (調べた日付). <http://www.city.meguro.tokyo.jp/kenkousuishin/kusei/keikaku/kenkoumeguro212837.html>
人間・植物関係学会. 2023. 話題提供 講演者 荒川金恵太. 人植関係学誌. 23 (別) : 67.
Ott, J. 2019. Olmsted in Seattle, Creating a Park System for a Modern City. History Link.
都市計画法制研究会 (編集). 2023. 都市計画法令要覧 (令和 6 年版). ぎょうせい.